

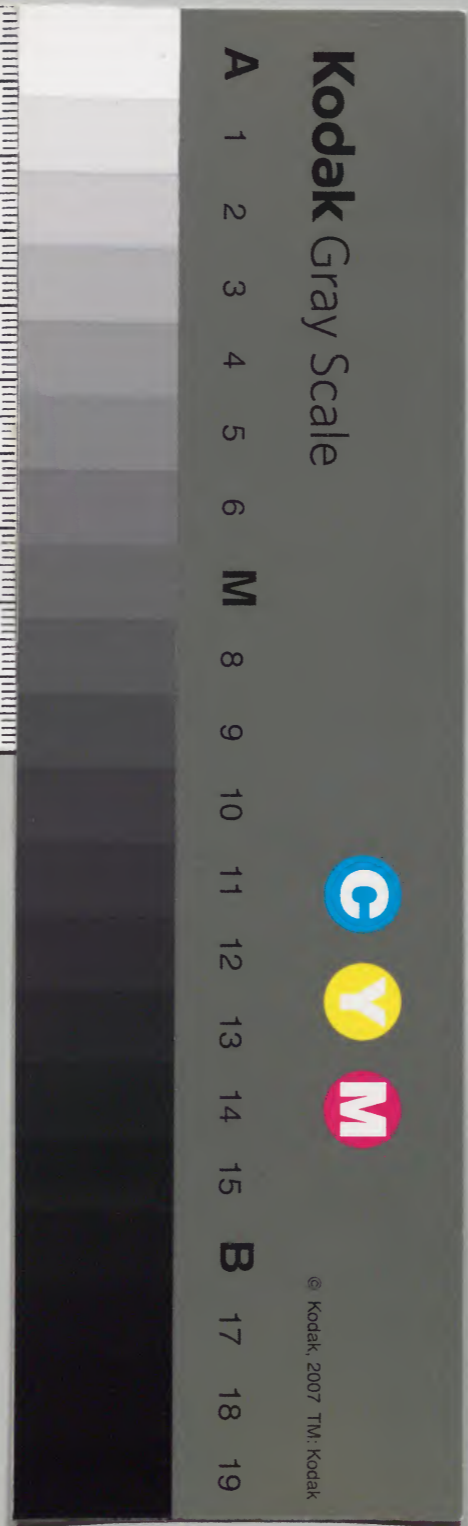
丹鶴叢書

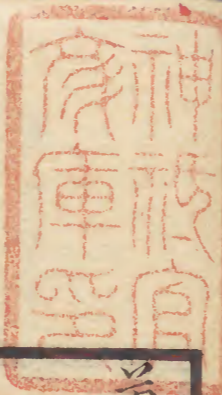
萬代和歌集 十五十六

		二九	和
一五	一	三六	書
四	四	八四	門
冊	架	函	類

庫文閣内		和
二六	二九	書
函	三六	
一	八四	
二	四	
架	冊	類

内閣文庫	
番號	和 29364
冊數	154 (36)
函號	216 2





萬代和歌集卷第十五

内一二九三九



雑音

あまのつらみはなほ

あまのつらみ

あまのつらみはなほあまのつらみはなほあまのつらみはなほ

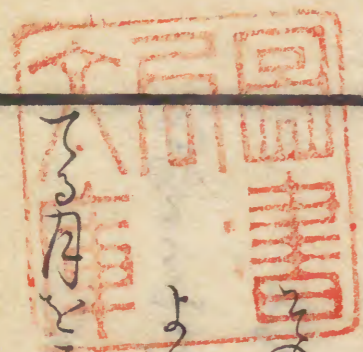
延喜寺時月とらまるといふはなほあまのつらみはなほ

そのの歌はあまのつらみはなほあまのつらみはなほ

よみはなほあまのつらみはなほ

あまのつらみはなほあまのつらみはなほあまのつらみはなほ

あまのつらみはなほあまのつらみはなほ
前冬後親陸



丹鳥長書

神のくちなるをいふもはあはれなる月をいふも
まにまに嘉陽門院越前
いふもあはれなるをいふもあはれなるをいふも
夜涼待月とていふも

大江嘉言

おもしろなる月影をいふもあはれなるをいふも
こころをいふもあはれなるをいふも

後徳大寺大信

くちなる月をいふもあはれなるをいふもあはれなるをいふも

後三位頼政

徳古月前途懐
こころ

徳古今雜下

これ徳古

あはれなる月をいふもあはれなるをいふもあはれなるをいふも

後惠法師

あはれなる月をいふもあはれなるをいふもあはれなるをいふも

後醍醐院大輔

徳古載秋下

あの中なる月をいふもあはれなるをいふもあはれなるをいふも
月のあはれなるをいふもあはれなるをいふもあはれなるをいふも

選子内親王家右を

風雅秋中

あの中なる月をいふもあはれなるをいふもあはれなるをいふも

同家大輔

あの中なる月をいふもあはれなるをいふもあはれなるをいふも

風月
よみ体
選子内親王

たいしらす

土佐の院寺家

徳後拾遺雜上

七つもの村のそとに後へはるるに村は月あつて

徳古今雜下

そとに月あつてはるるに村の月あつてはるるに

入道ま指改を大也

そとに月あつてはるるに村の月あつてはるるに

結好のそとに 前大納言為家

後へあつてはるるに村の月あつてはるるに

月とをえたる 従三位伊丸

そとに月あつてはるるに村の月あつてはるるに

光俊おちよとせはるる十その中よ

万

徳千載秋下

りまといひをよとせはるるに村の月あつてはるるに

藤室門院但馬

貞應のそとに月あつてはるるに村の月あつてはるるに

入道ま指改大也

そとに月あつてはるるに村の月あつてはるるに

後法性入を前扉のた大玉の時をよ

太宰大貳ま家

そとに月あつてはるるに村の月あつてはるるに

法橋行因

そとに月あつてはるるに村の月あつてはるるに

藤原成宗

あはれ月とやいそひのまはるる月とやいそひのまはるる
あまのついでに

右衛門左大臣

幾つとせむのしほのほろ月とやいそひのまはるる
月催舊情とてこころ

右衛門督基氏

月よあはれ月とやいそひのまはるる月とやいそひのまはるる
月あはれ月とやいそひのまはるる

正三位成実

徳吉百五ノ六ノ中

徳古今雜下

月よあはれ月とやいそひのまはるる月とやいそひのまはるる

月よあはれ月とやいそひのまはるる月とやいそひのまはるる

大徳云実家

月よあはれ月とやいそひのまはるる月とやいそひのまはるる

法師元性

月よあはれ月とやいそひのまはるる月とやいそひのまはるる

仁和寺入道二品親王

法橋顯昭

月よあはれ月とやいそひのまはるる月とやいそひのまはるる

法住寺入道

孫系頭仲秋也

丹波書

宣社門院丹後

建仁元年五月十一日

後高松按改太政大臣

結縁匠のあきふ 孫原信実秋也

月の中まきいよみはるふ

玉葉秋下題不知

続後撰秋中

西行法師

月出涯友とてしと

氏新の求範

参議脩範

光後と月と

津も玉基

あきいよみはるふ

道命法師

十鳥書

十鳥書

十鳥書

十鳥書

続古今雜下題不知

あはれむらさきさきさきいし老をせよとてしるす月日のあはれ
よきまはる月日

赤は糸

あはれむらさきさきさきいし老をせよとてしるす月日のあはれ

月日ははる

慈徳大徳

七十のあはれむらさきさきいし老をせよとてしるす月日のあはれ

寄月述懐

西園寺入道寺大政方也

はるあはれむらさきさきいし老をせよとてしるす月日のあはれ

従二位家隆の家よと月と

万

続後月のあはれ

従三位隆宗

あはれむらさきさきいし老をせよとてしるす月日のあはれ

続後撰雜中

持宗寺宗教也

あはれむらさきさきいし老をせよとてしるす月日のあはれ

続後拾遺雜下

麻生法也

あはれむらさきさきいし老をせよとてしるす月日のあはれ

後法性寺入道寺言白右方也のあはれ

小月前本懐也 大宰大貳中家

あはれむらさきさきいし老をせよとてしるす月日のあはれ

美いしるす 祝部本仲

菅原太政大臣

忠岑

山田法師

慶政上人

後中納言長方

Handwritten text in cursive style, likely a letter or official document, starting with '玉山田' and '玉兼'.

玉山田
玉兼
玉山田
玉兼

大神宮

後鳥羽院

和名式部

菅原太政大臣

中納言

Handwritten text in cursive style, continuing the document from the previous page.

大納言の光

心ゆくあるまじきものなりけり
和名式部なる名に
しるしをよとけり

大江雅政の書

あまたの心より人あはれなる
伊勢大捕志の
なまもつとくは

赤は馬

玉葉雜五
いさよはしめぬ

六帖題歌の中
大納言の家

昔のころとて
前中納言定家新抄撰集
先程の
浄意法師

石ころ
僧都遍救戒牒を
あはれ

前大信正明書

あつた
著駄政とく
そ命法師

丹鳥書

もろもろの... 延尉依... 惟宗感長

本草等... 丹波經長

楊貴妃... 陵園妾... 春の... 此日... 梅安使陸衝

純拾長帳哥のらと

純拾遺雜下

純後撰雜中

千鳥長書

あ中納言定家

時明あまそとのせしむしけいしよこも
ぬしけいしけいしよこも

よむむらら

導めしし路しんぬぬあまら回一箇あまら
あくー 源時の朝也

よめあまらあまらあまらあまらあまらあまら
あまらあまらあまらあまらあまらあまら

あまらあまらあまらあまらあまらあまら
あまらあまらあまらあまらあまらあまら

あまらあまらあまらあまらあまらあまら

あ中納言定家

あまらあまらあまらあまらあまらあまら
あまらあまらあまらあまらあまらあまら

法正良也

あまらあまらあまらあまらあまらあまら
あまらあまらあまらあまらあまらあまら

真昭法師

あまらあまらあまらあまらあまらあまら
あまらあまらあまらあまらあまらあまら

中愿師光

あまらあまらあまらあまらあまらあまら
あまらあまらあまらあまらあまらあまら

統後拾遺雜中

嵐とよみ侍る 二条太皇太后御持

あつめよのあしはあそひのしるしおふり

おきれよしるし侍るかきこめ

よみ侍る 中納言陸家

思ふやふと程のよは教のしるしあむい

おきいしるし 能因法師

昔より侍るよきしるしとまよふあむい

いよのしるしあしとあむい

あしとあむい

万

萬代和歌集卷第十六

雑歌三

題不知

よみ侍る

もよひよのあしとあむい

衣のよきしるしとあむい

藤原保昌おと丹後とよきしるし

おとあむい

中納言定頼

あしとあむい

後法性も入道あつめ白右大臣のあしとあむい

丹鳥集

新千載志三

梅のむらさき... 馬内侍

梅のむらさき... 中納言

梅のむらさき... 源道時

梅のむらさき... 源道時

梅のむらさき... 源道時

梅のむらさき... 源道時

梅のむらさき... 源道時

梅のむらさき... 源道時

梅のむらさき... 源道時

梅のむらさき... 源道時

梅のむらさき... 源道時

梅のむらさき... 源道時

梅のむらさき... 源道時

梅のむらさき... 源道時

梅のむらさき... 源道時

梅のむらさき... 源道時

梅のむらさき... 源道時

梅のむらさき... 源道時

梅のむらさき... 源道時

梅のむらさき... 源道時

建保内長秋十五をふりて秋懐四本と
大花二本を家

人一のあけと秋のふりて秋懐と

秋撰一を合ふ 後鳥羽院序一を

中一の風もあをぬるるのふりて秋懐と

屏風一 法性成一本入道関白一本を授けられた

ふりて秋懐と秋懐と

まゝいふ一 参議資一を

山一のふりて秋懐と秋懐と

太神宮一を授けられた

続古秋十

続古今秋上

後鳥羽院信一を

やまの門田一の秋懐と秋懐と

大系一を授けられた

新十載新十載雑中 十月一を授けられた

十月一を授けられた

信式部一を

信式部一を

い里一の秋懐と秋懐と

信吉社一を授けられた

くま一の秋懐と秋懐と

新後拾遺雜上

あはれに... 大正之位

あはれに... 大正之位

あはれに... 小

あはれに... 子一本

あはれに... 子内親王

新後拾遺雜中

あはれに... 松尾社

後鳥羽院

あはれに... 尊法大信

あはれに... 住持社

正之位

あはれに... 麻尾法

新後拾遺雜中

あはれに... 原具親

命法師
 志孝法師
 戒善法師
 後鳥羽院法時の八幡宮宮家より山家松
 直秋門院丹後

統後 山甲

統後 撰 雜 中

八條院言念
 藤原隆信
 後原經衡
 大納言
 前大納言為家

丹鳥叢書

欽一ノミ
 たのミ
 宗徳院侍所
 九条大進
 四條大進
 後三位
 布衣

最勝四天王院
 正三位
 西行法師
 正親王
 風

丹鳥叢書

山崎と云ふ事とて、前中納言眞実と云ふ
事本と云ふ事と云ふ程よと云ふは、
延長七年内、表は信厚、内は
也之

滝津も、夏より、おはか、
社名の海、つと、
やま、つと、あつと、
和名、式部

右大將道徳母

右大將道徳母

続後拾遺雜中

建保四年、
後鳥羽院、
初遊女の、
布川滝、
京極、
久家、
能因、
新拾遺雜中

建保四年、
後鳥羽院、
初遊女の、
布川滝、
京極、
久家、
能因、
新拾遺雜中

建保四年、
後鳥羽院、
初遊女の、
布川滝、
京極、
久家、
能因、
新拾遺雜中

建保四年、
後鳥羽院、
初遊女の、
布川滝、
京極、
久家、
能因、
新拾遺雜中

建保四年、
後鳥羽院、
初遊女の、
布川滝、
京極、
久家、
能因、
新拾遺雜中

建保四年、
後鳥羽院、
初遊女の、
布川滝、
京極、
久家、
能因、
新拾遺雜中

建保四年、
後鳥羽院、
初遊女の、
布川滝、
京極、
久家、
能因、
新拾遺雜中

建保四年、
後鳥羽院、
初遊女の、
布川滝、
京極、
久家、
能因、
新拾遺雜中

建保四年、
後鳥羽院、
初遊女の、
布川滝、
京極、
久家、
能因、
新拾遺雜中

建保二年丙辰...

後二位家隆

うつぬの...の...の...の...

屏風

花山院寺製

入江なる...の...の...の...

伴誓

...の...の...の...

...の...の...の...

...の...の...の...

...の...の...の...

後拾遺雜上

たりの守

伴誓

...の...の...の...

文治女侍入内厚風

三條入道き大主

...の...の...の...

題一

大納言通具

...の...の...の...

...の...の...の...

土侍右大主家

...の...の...の...

堀河院侍時

後拾遺雜上

後拾遺雜上

十鳥叢書

院後撰雜上題不知

檢中納言國信

綱院後のあいの小舟や入るしあまのたのほつ院後

俊頼の書

あひのちかみののほくはるるあまのたのほつ

湖を鶴院後 仁智入道二品親王院後

唐時院後の船やあまのたのほつ

正治院後 末大納言隆房

あまのたのほつあまのたのほつ

百院後のあまのたのほつ 鳥鶴院後

源俊平

五 皇治二年々々

玉皇雜二

あまのたのほつあまのたのほつ

藤原親成

あまのたのほつあまのたのほつ

素俊法師

あまのたのほつあまのたのほつ

素俊法師

あまのたのほつあまのたのほつ

素俊法師

あまのたのほつあまのたのほつ

お 掬

あまのついでと 能宣のち

たのむ後一物もあつた海のはつとあつたの橋を

まゝ

満ちたのちかゝる後へはつたのちあつたのち

圓融院は時丹後様よりついでに

とついでにたつたついで

まゝ

とついでにたつたついでにたつたついでに

京極のちあつたついでに見海士橋を

る階經

とついでにたつたついでにたつたついでに

まゝ 宗子おち

奥は風さのちあつたついでにたつたついでに

六帖題書の中よふ大納言あつた

入つたのちあつたついでにたつたついでに

まゝ 藤原隆祐

船入のちあつたついでにたつたついでに

まゝ お大信あつた

おまつるの浦よ風さぬちあつたついでに

丹嶋叢書

新十載恋回

能因法師

見... 能因法師

乾... 乾...

兼安二年唐田社...

好子内親己家中納言

むこの海のおのけ...

聯金のらんと 従二位家隆

...

堀の院...

万

前中納言匡房

大... 大...

雨... 雨...

道濟

...

三系右大臣家...

...

...

...

...

丹鳥書

たすけありよみかきもあはれいふるしあの中

後鳥羽院侍装

くおほし松尾のいそそく吹雪の身少袖ぬきん

まほに事院法衣のきり

西園寺入道お大政大臣

あそぬきたつたさむいもさるさみの海にける月影

法性入道お昇自家三千五百

清輔親王

なまのねんきみみ出つらん月あはれもいふさかき

いささか 好む

万

統後撰雜下

ほのりいまの海のうらみむあさかきと秋かなりふり 同上

千五石書あ金のさ

嘉陽門院越前

秋やめ秋さうらのいほいむかきさきさきお

海邊よき侍る 無品法親王 晃仁

えたる正室の女おのたまひにさきさきおの秋あはれは

述懐のあはれ中よ 後之位り能

こものあはれもあはれむむらのもあはれよの秋あはれは

海を述懐とさきさき

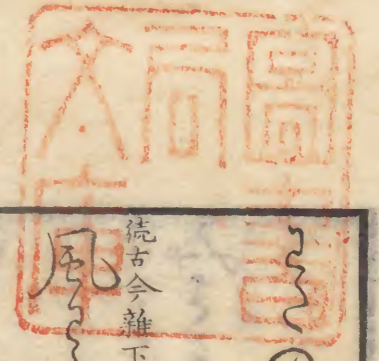
法常猷因

統後 修のり 侍る

統後撰雜上

丹雀集書

十六ノ廿四止



読古今雜下
風

の系沖の小いまのねけふうのあゝとあゝふ白泥
おきいーらふた ま大納らおめ

あゝとあゝのあゝ海士の松舟

約読古

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

万



